2026 年度教育・研究年度計画書（学長プラン 2026）

～伝統の深化と教育の革新による「質の高い小規模大学」への再構築～

高野山大学 学長 松長潤慶
（2026 年 3 月 25 日作成）

1. 策定の背景と基本姿勢：真摯なる反省と再生への誓い

本学は 2025 年度、認証評価における「不適合」という極めて厳しい判定を受けました。教学ガバナンスの形骸化、法令遵守の欠如という事実を、我々教職員一同は痛切な反省とともに受け止めなければなりません。

2026 年度は、これまでの「点検して終わり」という形式主義を完全に決別させる年です。弘法大師の教えを基盤とする本学の誇りを取り戻し、学生から、そして社会から真に信頼される「質の高い小規模大学」へと再生することをここに宣言します。

2. 重点施策：再生に向けた５つの改革

①信頼回復の礎：大学基準協会追評価への完全対応とガバナンス刷新

不適合判定からの早期脱却を最優先事項とし、大学運営の透明性を抜本的に高めます。

- 2026 年 7 月の追評価において、全学一丸となって「適合」判定の認証を得ます。
- 経営と教学の断絶を解消し、役職会と教授会が密に連携して意思決定を行う「教職協働」を実質化します。
- DX 基盤を活用し、学内の情報をオープンに共有することで、セクショナリズムを排した風通しの良い組織へと刷新します。

②教育の質の保証：教学組織の再編とカリキュラムの全面見直し

「何を教えるか」ではなく、学生が「何を身につけたか」を組織として保証する体制へ移行します。

- 現在の「密教文化コース」を通信教育課程へと発展的に再編成し、現代の学びのニーズに応える新たな教育モデルを構築します。
- 大学院から学部に至るまで、個人の裁量に頼りすぎない「組織による学位の質保証」を確立し、客観的な評価指標を導入します。
- 募集停止となった教育学科の学生に対し、卒業の日まで最高水準の教育と支援を提供し続けることを約束します。

③客観的データの活用：IR データや外部提言に基づく改善の実施

2026 年 3 月の大学評価委員会ならびに外部評価提言を迅速に反映し、以下の施策を 4 月より直ちに実施します。

・退学率や学生満足度調査などの教学 IR データを分析し、学生のニーズに直結した学修環境や支援サービスを随時見直します。

・年度計画の固定化を避け、データや外部提言に基づく改善案を「学長プラン」へ即座に反映させます。この動的な運用により、内部質保証の実効性を証明します。

④知的資産の還元：伝統の継承と現代的ニーズへの即応

本学が誇る世界的な密教研究の成果と貴重な資料を、教育と地域社会へ能動的に還元します。

・図書館や研究所の機能を「静的な保存」から「動的な活用」へと転換し、学生の日常的な学修や研究活動を全学で強力に支援します。

・研究成果を速やかに社会へ発信し、密教研究の世界的拠点として展開します。

⑤未来への飛躍：創立 140 周年・大学昇格 100 周年記念事業の推進

140 年の歴史を単なる回顧に留めず、次の 100 年を切り拓くためのエネルギーへと変革します。

・歴史的節目を契機として、本学のブランド価値を再定義し、広く社会に発信します。

・記念事業を通じて財務基盤を強化し、次世代の学生のための教育環境整備へと投資します。

3. 教職員へのメッセージ

今回の改革は、各部局が IR 室の指摘を真摯に受け止め、自ら導き出した「Action（改善)」の集大成です。これまでの「作成したら終り」「点検したら終り」という体制から脱却するためにも、本プランの進捗は、役職会において期中管理を行い、その客観的な達成度を全教職員に公表します。

変革は痛みを伴いますが、それは教育学科の学生を責任持って送り出し、伝統を次代へと繋ぐ「新生・高野山大学」へと進化を遂げるための、不可欠な脱皮のプロセスです。これまでの閉鎖的なセクショナリズムを排し、一人ひとりの専門性と熱意を「高野山大学の再生」という一点に結集させましょう。私たちは必ず、より強く、より輝く大学として生まれ変わることができます。

（以上）